

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸
2024年度 第6回 学生交流委員会
議事次第

日 時：2024年3月18日（火）15:00～16:30

場 所：Zoom

委員校：神戸常盤大学（委員長校）・神戸学院大学（副委員長校）

芦屋大学、大手前大学、大手前短期大学、関西国際大学、関西学院大学、関西学院短期大学、
甲南大学、甲南女子大学、神戸大学、神戸海星女子学院大学、神戸国際大学、神戸市看護大学、
神戸松蔭女子学院大学、神戸女学院大学、神戸女子大学、神戸女子短期大学、神戸親和大学、
頌栄短期大学、園田学園女子大学、園田学園女子大学短期大学部、姫路大学、兵庫大学、
兵庫大学短期大学部、兵庫県立大学、流通科学大学

計 27 校

I. 審議事項

1. 2024年度 学生交流委員会 事業報告・決算（案）について (資料1)
取組1 テーマ型の学生交流プロジェクト「WILL BE プロジェクト」
取組2-1 学生発信ブランディング「加盟校・学生の地域活性化に関わる取組広報」
取組2-2 学生発信ブランディング「若者による『震災の教訓を繋ぐプロジェクト』」
標記に関し、中村理事長から各事業委員会に、資料1-1のとおり依頼があった。
資料1-2「2024年度事業報告案」および「決算案」について審議。

II. 報告事項

1. 取組2「加盟校・学生の地域活性化に関わる取組広報」について (資料2)
2. 第22回全国大学コンソーシアム 研究交流フォーラムについて (資料3)
・パネル展示応募状況について
3. その他

III. 懇談事項

1. キッズフェスティバルについて (資料4)
2. その他

IV. 連絡・調整事項

1. 2025年度 事業委員会の委員・ご担当者の登録について
2. その他

以上

<資料一覧>

資料1-1：2025年度事業計画・予算(案)及び2024年度事業報告・決算(案)の作成について（依頼）

資料1-2：2024年度学生交流委員会事業報告・決算（案）

資料2：【取組2】学生発信ブランディング「加盟校・学生の地域活性化に関わる取組広報」について

資料3-1：加盟校からのパネル展示応募状況

資料3-2：神戸学院大学 会場図

資料4：キッズフェスティバル企画案

2025年1月吉日

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸
事業委員会 委員長 各位

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸
理事長 中村 恵

2025年度事業計画・予算（案）及び2024年度事業報告・決算（案）の作成について（依頼）

拝啓 寒冷の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は当コンソーシアムの活動に深いご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、標記の件につきまして、下記のとおりご提出いただきますよう、よろしくお願いいたします。

なお、2025年度事業計画の作成にあたっては、2024年度の各事業委員会の自己評価をもとに企画運営委員会及び理事会にて作成した改善提案の内容を踏まえてご検討いただきますようお願いいたします。ご不明な点がございましたら、事務局までお問い合わせください。

敬具

記

1. 2025年度事業計画・予算（案）及び2024年度事業報告・決算（案）の作成・提出
 - (1) 2025年度事業計画・予算【鑑】（案）
提出期限：2025年2月14日（金）正午
 - (2) 2025年度事業計画・予算【詳細】（案）
提出期限：2025年5月8日（木）正午
※第6回理事会(1/29)において来年度の各委員会事業に対する予算が承認されました。
委員会事業予算（総額）：600万
 - (3) 2024年度事業報告・決算（案）
提出期限：2025年3月27日（木）正午
2. 今後のスケジュール
 - (1) 「2025年度事業計画・予算（案）」
2025年3月17日 第7回理事会にて審議・決定
2025年6月（予定） 定時総会にて報告
 - (2) 「2024年度事業報告・決算（案）」
2025年4月（予定） 2025年度第1回理事会にて審議、定時総会に上程
2025年6月（予定） 定時総会にて審議・決定

（添付書類）

- ・添付1) 2024年度 各事業委員会活動の自己評価に対する改善提案
- ・添付2) 2025年度 【記入用】事業計画・予算（案）
- ・添付3) 2024年度 【記入用】事業報告・決算（案）

以上

【2024年度 学生交流委員会 事業報告】(案)

委員長校	神戸常盤大学
副委員長校	神戸学院大学
委員校 (全:27校)	芦屋大学、大手前大学、大手前短期大学、関西国際大学、関西学院大学、関西学院短期大学、甲南大学、甲南女子大学 神戸大学、神戸海星女子学院大学、神戸国際大学、神戸市看護大学、神戸松蔭女子学院大学、神戸女学院大学、神戸女子大学 神戸女子短期大学、神戸親和大学、頌栄短期大学、園田学園女子大学、園田学園女子大学短期大学部、姫路大学 兵庫大学、兵庫大学短期大学部、兵庫県立大学、流通科学大学

中長期計画Ⅱ期の取組課題/達成目標/活動指標	
課題	課題③大学の枠を超えた学生間の交流・活動促進
取組1	<テーマ型の学生交流プロジェクトの実施>WILL BE プロジェクト
達成目標	各年参加者数50名以上
活動指標	参加加盟校数10校以上/年
取組2	<学生発信ブランディング>加盟校・学生の地域活性化に関わる取組広報の実施
達成目標	情報公開数200取組以上
活動指標	各加盟校からの情報提供/年1回以上 情報公開数40取組以上/年

目的
<p>大学コンソーシアムひょうご神戸中長期計画Ⅱ期の柱「1. 地域の活性化に資する人材育成のための連携」の推進に向けて、以下の取組課題について事業推進を行う。</p> <p>取組課題③「大学の枠を超えた学生間の交流・活動促進」 ・年間を通し各委員校からの提案を協議し、大小問わず、魅力的、そして学生が地元地域への理解を深め、魅力を感じることができるプログラムを予算範囲内で可能な限り実施し、学生交流を活性化させることを目的とする。</p> <p>上記取組を推進する体制の構築並びに、必要なプロジェクト事業は本委員会にて実施する。</p>

課題③大学の枠を超えた学生間の交流・活動促進		
予算額	取組1	テーマ型の学生交流プロジェクト「WILL BEプロジェクト」 1,010,000円
	取組2-1	学生発信ブランディング「加盟校・学生の地域活性化に関わる取組広報」 240,000円
	取組2-2	学生発信ブランディング若者による「震災の教訓を繋ぐプロジェクト」(2025年2月28日、当初委託料金9,730,900円を1,000,000円減額に変更契約。なお1,000,000円は2025年度に繰越) 8,730,900円 ※受託事業収入

期待される効果
<p>他大学の学生との交流、社会人との交流等の場を提供することによる効果は以下の通り。</p> <p>【取組1】学生が地域・企業との連携・協働を通じた様々な社会貢献活動に、地元企業や自大学以外の学生と一緒に参加することで地域の魅力、または課題を直に感じ、理解を深め、そして解決策を自発的に考える効果が期待できる。</p> <p>【取組2】参加した学生に様々な交流、広報活動を促すことにより、学生自らが他大学の学生と協働し、企画を実現することで主体性・実行力・発信力が向上する。また学生がメディア等を活用した周知に取り組むことで、自主性や文章構成力等を高めることを目的とする。併せてコンソの認知度を高める。</p> <p>上記2つの取組により、コンソ加盟校の学生において本事業での経験が大学4年間の生活の充実に資する効果が期待できる。</p>

【2024年度 学生交流委員会 事業報告(③取組1-1)】(案)

課題③	大学の枠を超えた学生間の交流・活動促進
達成目標	参加学生数30名以上
課題を解決する取組概要	テーマ型の学生交流プロジェクトの実施 <WILL BE プロジェクト>①地域子育て支援拠点・こどもの居場所でのボランティア等活動
活動指標	参加団体5団体以上。個人参加15名以上。

計画(4月記載)	自己評価(12月記載)	報告(3月記載)
<p>◆地域の「子育て支援拠点」や「子どもの居場所」での学生ボランティア活動</p> <p><内容> 1、加盟校が連携して、学生がボランティア活動や地域貢献活動に参加しやすい場、学修成果を発表できる場として、各大学が設置する施設を他大学学生にも活動先の一つとして開放・提供する。自学のプログラムやフィールドを加盟校の他大学の学生にも開放することで、学生間の交流を促進する。</p> <p>2、行政・公的団体等が設置する地域の「子どもの居場所」も対象とする。</p> <p>※加盟校で拠点を開放いただける大学があれば、随時 活動場所を追加し、学生に周知する。</p> <p>【開放施設】 ①ときわんモトロク(神戸市中央区・元町六丁目商店街) ②ときわんノエスタ・てらこやノエスタ(神戸市兵庫区・ノエビスタジアム神戸) ③ときわんクニツカ・てらこや(神戸市長田区・アスタくにつか4番館) ④あかしフリースペース トロッコ(明石市)</p> <p><開催時期>2024年5月下旬～2025年3月(予定)</p> <p><募集対象>加盟校学生 ※団体・個人問わず</p>	<p>◆地域の「子育て支援拠点」や「子どもの居場所」での学生ボランティア活動</p> <p>公益財団法人日本財団ボランティアセンターとの共催事業として実施している。 (協力:公益財団法人B&G財団、あかしフリースペース トロッコ)</p> <p>(活動内容) ・学生のボランティア活動 【開催時期】2024年6月～2025年3月 【申込・参加学生数】申込者11校28名、参加者5校14名(のべ人数) (参加者内訳)活動先・学生所属校・人数は以下の通り ①②③ときわん:6名 神戸学院大学(2)、神戸女子大学(1)、兵庫県立大学(1)、流通科学大学(2) ④トロッコ:8名 神戸学院大学(3)、兵庫県立大学(1)、兵庫大学(4) ※11月29日時点</p> <p>・学生振り返りワークショップ(予定) 子ども支援に関わる学生たち同士で自身の活動を振り返り、子ども支援に対する意見交換を行う。 【開催時期】2025年2月(予定) 【対象】①「地域子育て支援拠点・こどもの居場所でのボランティア等活動」にてこれまで活動したことがある学生②子ども支援に関わっている加盟校の学生</p> <p>(自己評価) 6月～11月の実施期間で28名の申し込みがあり、子どもに関わるボランティアへの学生のニーズは一定数ある。必要に応じて学生には個別相談を行い、学生のボランティア活動の第一歩を踏み出すきっかけを提供できている。しかし、施設の開所時間が平日の日中(土日休)のため、通常の授業期間中は学生のマッチングが難しく、授業等と重なる場合、参加できても1回限りとなる傾向がある。申込者全員が活動できれば達成目標への到達を見込めるが、実際に活動できた学生は団体参加1団体2名、個人参加11名の計13名であり、本プログラムの継続には改善が必要と考える。</p>	<p>◆地域の「子育て支援拠点」や「子どもの居場所」での学生ボランティア活動</p> <p>公益財団法人日本財団ボランティアセンターとの共催事業として実施している。 (協力:公益財団法人B&G財団、あかしフリースペース トロッコ)</p> <p>(活動内容) ・学生のボランティア活動 【開催時期】2024年6月～2025年3月 【申込・参加学生数】申込者11校30名、参加者5校21名(のべ人数) (参加者内訳)活動先・学生所属校・人数は以下の通り ①②③ときわん:12名 神戸学院大学(2)、神戸女子大学(1)、兵庫県立大学(3)、流通科学大学(6) ④トロッコ:9名 神戸学院大学(3)、兵庫県立大学(1)、兵庫大学(5)</p> <p>・子どもにかかわる学生ボランティアふりかえりワークショップ 【開催時期】2025年3月6日 【対象】子どもに関わるボランティアに関心のある人 【参加者数】23名(加盟校:学生2名、教職員3名、加盟校外:学生4名、教職員4名、行政・団体9名、一般1名) ¥ (報告) 今年度、学生ボランティア30名の申し込みがあり、子どもに関わるボランティアへの学生のニーズは一定数あった。必要に応じて学生には個別相談を行い、学生のボランティア活動の第一歩を踏み出すきっかけを提供できた。しかし、施設の開所時間が平日の日中が中心のため、授業期間中は学生のマッチングが難しく、授業等と重なる場合、参加できても1回限りとなる傾向があった。申込者全員が活動できれば達成目標への到達を見込めたが、実際にワークショップ含めて、のべ27名であり、本プログラムの継続には改善が必要と考える。</p>
達成目標に対する実績	参加学生数14名	参加学生数27名
活動指標に対する実績	1団体2名参加、個人参加12名	1団体6名参加、個人参加21名
自己評価基準:対到達目標 ※	2	—
自己評価基準:対継続性 ※	2	—

事業収支(※取組1-1、1-2、1-3の合計)				
収入	支出	収支	支出	収支
1,010,000円	56,446円	953,534円	170,393円	839,607円

理事会からの改善提案(次年度事業計画に反映)

加盟校ならびに行政が有する子育て支援施設や子どもの居場所と連携するボランティア活動は、学生のニーズもあり、支援体制を構築できている点は評価できる。また、外部資金を活用して交通費等、学生の経済的負担を軽減できている点も評価したい。ただし、学業との両立(学校からの移動距離・授業時間等との兼ね合い)において、一部学生の参加にとどまる傾向があるため、より多くの加盟校学生が参加しやすい事業内容についても検討いただきたい。

※ 自己評価基準:対到達目標	4:当初計画を上回って達成 3:当初計画を達成 2:当初計画をやや下回った 1:当初計画を下回った	※ 自己評価基準:対継続性	4:本プログラムは継続すべき 3:本プログラムは継続しても良い 2:本プログラムの継続には改善が必要 1:本プログラムは中止すべき
-------------------	--	------------------	--

【2024年度 学生交流委員会 事業報告(③取組1-2)】(案)

課題③	大学の枠を超えた学生間の交流・活動促進
達成目標	参加学生数10名以上
課題を解決する取組概要	テーマ型の学生交流プロジェクトの実施 <WILL BE プロジェクト>②「ヴィクトリーナ姫路 スポーツビジネスコンテスト」 (正式名:ナガセケムテックスプレゼンツ「ヴィクトリーナ姫路・大学コンソーシアムひょうご神戸 スポーツビジネスコンテスト」)
活動指標	参加学生のチーム活動/月1回以上(活動期間中)

計画(4月記載)	自己評価(12月記載)	報告(3月記載)
<p>◆ナガセケムテックスプレゼンツ「ヴィクトリーナ姫路 スポーツビジネスコンテスト」 地域の活性化に資する人材育成のためのプログラムとして、地域スポーツ振興をテーマに企画実施する。</p> <p><内容> 姫路を拠点に活動するプロバレーボールチーム「ヴィクトリーナ姫路」が抱える事業課題について、ゼミ単位もしくは大学の垣根を越えて構成した学生プロジェクトチームで、課題解決につながる企画を立案。ヴィクトリーナ姫路へのプレゼンテーションを経て、その企画を学生が主体となってホームゲームで実施し、その効果を検証する。</p> <p>学生にとっては、大学講義等で学んだことを実践する機会となり、深みのある学びが期待できる。また、本事業を通じて、社会人として求められるスキルであるマーケティング思考やプロジェクトマネジメントを習得するきっかけとする。</p> <p><活動期間>2024年8月～2025年1月(予定) <募集対象>加盟校学生・ゼミ</p>	<p>◆ナガセケムテックスプレゼンツ「ヴィクトリーナ姫路 スポーツビジネスコンテスト」</p> <p>(活動内容) ・意見交換会(6/14):参加者11名(加盟校:学生1名、教職員3名、企業5名、行政2名) 【チーム活動・期間・場所等】 1、オリエンテーション(9/23・兵庫国際交流会館):参加者57名(加盟校:学生39名、教職員6名、加盟校外:高校生2名、高校教職員2名、企業6名、行政2名) 2、企画実施準備(9/24～11/9) 3、実践に向けて課題提案(10/12・オンライン) 4、ホームゲーム現地視察(11/2・ウインク体育館):参加者22名 5、企画プレゼン大会(11/10・神戸常盤アリーナ):参加者62名(加盟校:学生42名、教職員6名、加盟校外:高校生4名、高校教職員2名、企業6名、行政2名) 6、企画実施(コンテスト期間中、チームごとに実践) 7、結果発表・表彰式(2025/1/18予定)</p> <p>【登録学生数】加盟校14校66名 (内訳)関西学院大学(1)、甲南大学(20)、神戸学院大学(9)、神戸芸術工科大学(1)、神戸国際大学(1)、神戸市外国語大学(1)、神戸松蔭女子学院大学(1)、神戸女学院大学(1)、神戸親和大学(6)、神戸常盤大学(1)、兵庫大学(4)、兵庫教育大学(1)、兵庫県立大学(4)、流通科学大学(15) ※別途、兵庫県立姫路商業高校(2)オープン参加(コンテストの審査対象外での特別参加) 【参加者数】のべ130名(加盟校:学生82名、教職員15名、加盟校外:高校生6名、高校教職員4名、企業17名、行政6名)</p> <p>(自己評価) 3年目を迎えて本事業に注目した兵庫県(スポーツ課)が新たに共催者となり、社会的にも意義あるプログラムに発展した。企画時より連携体制と運営の充実を図り、活動指標・達成目標ともに到達し、当初計画通り事業を推進できている。しかし、次年度以降の事業継続について、兵庫県、共催・協賛企業より、兵庫県内・県外の非加盟校の学生に参加者枠を開放・拡大する要望が出ており、コンソ主催事業として事業を継続するには改善(検討)が必要であると考えます。</p>	<p>◆ナガセケムテックスプレゼンツ「ヴィクトリーナ姫路 スポーツビジネスコンテスト」</p> <p>(活動内容) ・意見交換会(6/14):参加者11名(加盟校:学生1名、教職員3名、企業5名、行政2名) 【チーム活動・期間・場所等】 1、オリエンテーション(9/23・兵庫国際交流会館):参加者57名(加盟校:学生39名、教職員6名、加盟校外:高校生2名、高校教職員2名、企業6名、行政2名) 2、企画実施準備(9/24～11/9) 3、実践に向けて課題提案(10/12・オンライン) 4、ホームゲーム現地視察(11/2・ウインク体育館):参加者22名 5、企画プレゼン大会(11/10・神戸常盤アリーナ):参加者62名(加盟校:学生42名、教職員6名、加盟校外:高校生4名、高校教職員2名、企業6名、行政2名) 6、企画実施(コンテスト期間中、チームごとに実践):参加者95名 7、結果発表・表彰式:参加者87名</p> <p>【登録学生数】加盟校14校66名 【参加者数】のべ312名(加盟校:学生217名、教職員26名、加盟校外:高校生10名、高校教職員8名、企業41名、行政10名) (内訳:加盟校学生参加者217名)関西学院大学(4)、甲南大学(56)、神戸学院大学(31)、神戸芸術工科大学(3)、神戸国際大学(3)、神戸市外国語大学(5)、神戸松蔭女子学院大学(3)、神戸女学院大学(4)、神戸親和大学(20)、神戸常盤大学(3)、兵庫大学(16)、兵庫教育大学(2)、兵庫県立大学(17)、流通科学大学(50)</p> <p>(報告) 3年目を迎えて本事業に注目した兵庫県(スポーツ課)が新たに共催者となり、社会的にも意義あるプログラムに発展した。企画時より連携体制と運営の充実を図り、活動指標・達成目標ともに到達し、当初計画通り事業を推進できた。しかし、次年度以降の事業継続について、兵庫県、共催・協賛企業より、兵庫県内・県外の非加盟校の学生に参加者枠を開放・拡大する要望が出ており、コンソ主催事業として事業を継続するには改善(検討)が必要であると考えます。</p>
達成目標に対する実績	参加学生数82名	参加学生数217名
活動指標に対する実績	月1回以上、参加学生のチーム活動を開催した	月1回以上、参加学生のチーム活動を開催した
自己評価基準:対到達目標 ※	4	—
自己評価基準:対継続性 ※	2	—

事業収支(※取組1-1、1-2、1-3の合計)				
収入	支出	収支	支出	収支
1,010,000円	56,446円	953,534円	170,393円	839,607円
理事会からの改善提案(次年度事業計画に反映)				
<p>地元企業・協賛企業との連携プロジェクトとして3年目を迎え、新たに兵庫県が共催に加わるなど、プロジェクトの社会的価値が高まり、学生の地元企業理解や成長機会に本取組が寄与してきた実績を評価したい。同時に、次年度以降の継続については、連携先との協議の上、コンソ事業としてふさわしい関わり方を検討していきたい。</p>				

※ 自己評価基準:対到達目標	4:当初計画を上回って達成 3:当初計画を達成 2:当初計画をやや下回った 1:当初計画を下回った	※ 自己評価基準:対継続性	4:本プログラムは継続すべき 3:本プログラムは継続しても良い 2:本プログラムの継続には改善が必要 1:本プログラムは中止すべき
-------------------	--	------------------	--

【2024年度 学生交流委員会 事業報告(③取組1-3)】(案)

課題③	大学の枠を超えた学生間の交流・活動促進
達成目標	参加学生数10名以上
課題を解決する取組概要	テーマ型の学生交流プロジェクトの実施 <WILL BE プロジェクト>③兵庫の魅力 Student Treasure Hunt Project ～2025年大阪 関西万博に向けて～兵庫県「ひょうごフィールドパビリオン」との連携～
活動指標	参加学生のチーム活動/月1回以上(活動期間中)

計画(4月記載)	自己評価(12月記載)	報告(3月記載)
<p>◆兵庫の魅力 Student Treasure Hunt Project ～2025年大阪・関西万博に向けて～兵庫県「ひょうごフィールドパビリオン」との連携について</p> <p>兵庫県では2025年日本国際博覧会「大阪・関西万博」に向けて「兵庫県万博推進室」を設置し、「ひょうごフィールドパビリオン」構想のもと、県内団体から「SDGs体験型地域プログラム」を公募して、関西に訪れる国内外の観光客を兵庫県に誘致する観光施策をスタートしている。</p> <p>学生交流委員会では「大阪・関西万博」を学生交流や学生の教育機会として位置づけ、自治体・企業・地域団体等と連携して、「兵庫県の大学生が兵庫県の魅力を自ら体感し、その魅力を発信する」取組を進める。</p> <p>【内容】昨年度より、兵庫五国(5地域10市)の「ひょうごフィールドパビリオンSDGs体験型地域プログラム」を行政・団体等と連携しながら、学生が5チームに分かれてモニター体験を行ってきた。今年度は、学生たちが各地域での学修成果を、兵庫県立兵庫津ミュージアム(神戸市)の企画展「万博展」の企画の一つとして展示、成果発表を行う。ミュージアムの指導のもと、観光振興・地域貢献の観点から、学生が展示物を計画・制作し、会期中は、子ども向けのワークショップ等も展開予定。</p> <p>【活動期間】2024年4月1日～10月6日(予定) ①「兵庫の魅力」発信のための紹介パネル・映像等の企画・制作(5月～6月) ②「ひょうごフィールドパビリオンSDGs体験型地域プログラム」課題解決プラン・プレゼンテーション(8月31日) ③兵庫県立兵庫津ミュージアム「万博展」での学生プロジェクト成果展示(7月20日～9月23日) ④最終報告会(10月6日)</p> <p>【対象エリア】兵庫五国(5エリア) ・摂津(尼崎市・川西市) ・播磨(多可町・西脇市) ・但馬(豊岡市) ・丹波(丹波市・丹波篠山市) ・淡路(淡路市・南あわじ市)</p> <p>【共催】兵庫県立兵庫津ミュージアム</p>	<p>◆兵庫の魅力 Student Treasure Hunt Project ～2025年大阪・関西万博に向けて～兵庫県「ひょうごフィールドパビリオン」との連携について</p> <p>(活動内容) 1、「ひょうごフィールドパビリオンSDGs体験型プログラム」学生モニター体験ツアー 【開催日(訪問先)・参加者数】 ①2024年4月1日(摂津)・23名(学生10名、教職員2名、企業3名、行政・団体8名) ②2024年4月5日(淡路)・20名(学生3名、企業5名、行政・団体12名) ③4月14日(西脇)・8名(学生2名、企業6名) 計51名(学生15名、教職員2名、企業14名、行政・団体20名)</p> <p>2、兵庫津ミュージアムの企画展「未来へつなごう！万博展—その歴史とひょうごフィールドパビリオン」(以下「万博展」) 【期間】2024年6月2日(日)～9月15日(日) 【場所】兵庫県立兵庫津ミュージアム(神戸市兵庫区中之島2丁目2-1)ほか 【参加者】総計190名(のべ人数):(学生11校61名、教職員5校5名、企業9名、団体・行政19名、一般96名) 【参加学生のチーム活動】 1)展示制作ワーク(6/2・16・30、7/7・14、8/18の計6回):計59名 2)運営学生のインスタグラム広報活動:14投稿 3)「万博展」開会式・内覧会(7/19)・展示見学会(7/20):計5名 4)「ひょうごフィールドパビリオン体験ワークショップ」第1回(9/14):計41名(学生4名、教職員3名、一般34名)、第2回(9/15):計40名(学生4名、教職員1名、一般35名) 5)学生フォーラム「ひょうご五国の魅力体験」(9/15・台風のため当初予定8/31を延期開催):計45名(学生10名、企業2名、団体6名、一般27名)</p> <p>(自己評価) 2025年大阪・関西万博を契機に、産官学連携の学生交流プロジェクトとして本取組を2か年にかけて、当初計画通り実施することができた。活動目標・達成目標ともに到達しており、学生が自ら発見した兵庫の魅力を発信する体験を通じて、地域で活躍、貢献する人材の育成に寄与できたと考える。</p>	<p>◆兵庫の魅力 Student Treasure Hunt Project ～2025年大阪・関西万博に向けて～兵庫県「ひょうごフィールドパビリオン」との連携について</p> <p>(活動内容) 1、「ひょうごフィールドパビリオンSDGs体験型プログラム」学生モニター体験ツアー 【開催日(訪問先)・参加者数】 ①2024年4月1日(摂津)・23名(学生10名、教職員2名、企業3名、行政・団体8名) ②2024年4月5日(淡路)・20名(学生3名、企業5名、行政・団体12名) ③4月14日(西脇)・8名(学生2名、企業6名) 計51名(学生15名、教職員2名、企業14名、行政・団体20名)</p> <p>2、兵庫津ミュージアムの企画展「未来へつなごう！万博展—その歴史とひょうごフィールドパビリオン」(以下「万博展」) 【期間】2024年6月2日(日)～9月15日(日) 【場所】兵庫県立兵庫津ミュージアム(神戸市兵庫区中之島2丁目2-1)ほか 【参加者】総計190名(のべ人数):(学生11校61名、教職員5校5名、企業9名、団体・行政19名、一般96名) 【参加学生のチーム活動】 1)展示制作ワーク(6/2・16・30、7/7・14、8/18の計6回):計59名(学生39名、教職員1名、企業・団体19名) 2)運営学生のインスタグラム広報活動:14投稿 3)「万博展」開会式・内覧会(7/19)・展示見学会(7/20):計5名(学生4名、企業1名) 4)「ひょうごフィールドパビリオン体験ワークショップ」第1回(9/14):計41名(学生4名、教職員3名、一般34名)、第2回(9/15):計40名(学生4名、教職員1名、一般35名) 5)学生フォーラム「ひょうご五国の魅力体験」(9/15・台風のため当初予定8/31を延期開催):計45名(学生10名、企業2名、団体6名、一般27名)</p> <p>(報告) 2025年大阪・関西万博を契機に、産官学連携の学生交流プロジェクトとして本取組を2か年にかけて、当初計画通り実施することができた。活動目標・達成目標ともに到達しており、学生が自ら発見した兵庫の魅力を発信する体験を通じて、地域で活躍、貢献する人材の育成に寄与できたと考える。</p>
達成目標に対する実績	参加学生数61名	参加学生数76名
活動指標に対する実績	月1回以上、参加学生のチーム活動を開催した	月1回以上、参加学生のチーム活動を開催した
自己評価基準:対到達目標 ※	4	—
自己評価基準:対継続性 ※	3	—

事業収支(※取組1-1、1-2、1-3の合計)				
収入	支出	収支	支出	収支
1,010,000円	56,446円	953,534円	170,393円	839,607円

理事会からの改善提案(次年度事業計画に反映)

加盟校の学生たちが元気になる学生交流活動として、2025年「大阪・関西万博」と連動して、当初計画通り、2か年にわたり、単なるお祭りの交流活動にとどまることなく、地域課題の解決も視野に入れて、兵庫の魅力を発見・発信する学生の活動そのものが、兵庫県の魅力向上に寄与した点は評価したい。今後も、加盟校の学生が地域で活躍する姿を国内外に発信機会するがあれば、取り組んでいただきたい。

※ 自己評価基準:対到達目標	4:当初計画を上回って達成 3:当初計画を達成 2:当初計画をやや下回った 1:当初計画を下回った	※ 自己評価基準:対継続性	4:本プログラムは継続すべき 3:本プログラムは継続しても良い 2:本プログラムの継続には改善が必要 1:本プログラムは中止すべき
-------------------	--	------------------	--

【2024年度 学生交流委員会 事業報告(③取組2-1)】(案)

課題③	大学の枠を超えた学生間の交流・活動促進
達成目標	情報公開数200取組以上
課題を解決する取組概要	加盟校・学生の地域活性化に関わる取組広報の実施
活動指標	各加盟校からの情報提供/年1回以上、情報公開数40取組以上/年

計画(4月記載)	自己評価(12月記載)	報告(3月記載)
<p>◆地域の活性化に関わる加盟校学生の取組事例の紹介</p> <p>大学コンソーシアムひょうご神戸のホームページに、加盟校の学生が地域の活性化に関わる取組事例を公開する。また必要に応じて、様々なメディア等への告知を検討・計画する。</p> <p><内容> 加盟校からの情報提供をもとに、地域で若者が活躍する姿を周知することにより、加盟校による地域の活性化のための貢献活動に取り組む。</p>	<p>◆地域の活性化に関わる加盟校学生の取組事例の紹介</p> <p>(活動内容) 加盟校からの情報提供をもとに、大学コンソーシアムひょうご神戸HP上からもリンクされた「note」に「地域で輝く学生」と題した読み物記事の連載を行っている。通年で、地域で学生が活躍する姿を広く周知している。 【掲載実績】10校21取組</p> <p>(自己評価) 中長期計画Ⅱ期(5か年)の達成目標である「情報公開数200取組以上」を目指して、本年度は委員校が1校あたり2取組を今年度内に掲出する計画を立てて、活動しており、活動指標・達成目標ともに到達する予定である。 学生の活動内容が多様であるため、各校において情報の取捨選択が難しい場合があるが、地域人材として学生が重要な役割を果たしていることを広く社会に周知することは、大学が取り組む地域貢献の理解促進に寄与する観点から、本プログラムは継続しても良いと考える。</p>	<p>◆地域の活性化に関わる加盟校学生の取組事例の紹介</p> <p>(活動内容) 1、加盟校からの情報提供をもとに、大学コンソーシアムひょうご神戸HP上からもリンクされた「note」に「地域で輝く学生」と題した読み物記事の連載を行っている。通年で、地域で学生が活躍する姿を広く周知している。 【掲載実績】55取組(20校49取組、コンソ事業6取組)</p> <p>2、【取組1-3】“兵庫の魅力”Student Treasure Hunt Project『未来へつなごう！万博展—その歴史とひょうごフィールドパビリオン』運営学生スタッフによるインスタグラムでの広報活動を行った。 【掲載実績】14投稿</p> <p>3、メディア掲載 ■ヴィクトリーナ姫路スポーツビジネスコンテスト・「バレーのヴィクトリーナ盛り上げるアイデア競う」スポーツビジネスコンテスト 神戸親和が大が最優秀賞」神戸新聞.2025年1月20日/ネットニュース5記事:共同通信PRワイヤー/紀伊民報/沖縄タイムス/高知新聞/exciteニュース.2025年1月21日 ■若者による「震災の教訓を繋ぐプロジェクト」 「経験なき「あの日」継承模索」毎日新聞.2024年10月13日/「地元大学生が動画制作・・・「震災教訓、次世代へ阪神・淡路大震災30年」時事通信.2025年1月17日 【掲載実績】8記事</p> <p>※2022～2024年度:計156取組 (2024年度:68取組、2023年度:27取組、2022年度:28取組)</p> <p>(報告) 中長期計画Ⅱ期(5か年)の達成目標である「情報公開数200取組以上」を目指して、本年度は委員校が積極的に取組を掲出する計画を立てたことにより、活動指標・達成目標ともに到達した。メディア掲出も含めて、地域人材として学生が重要な役割を果たしていることを広く社会に周知された事は、大学による地域貢献の理解促進にも寄与したと考えられる。</p>
達成目標に対する実績	74取組	165取組
活動指標に対する実績	21取組(年内40取組掲出予定)	77取組
自己評価基準:対到達目標 ※	2	—
自己評価基準:対継続性 ※	3	—

事業収支				
収入	支出	収支	支出	収支
240,000円	15,700円	224,300円	78,700円	161,300円
理事会からの改善提案(次年度事業計画に反映)				
<p>コンソHP上にて「地域で輝く学生」と題して、各加盟校の特長ある地域活動を通じて、学生が地域に貢献する姿をわかりやすく伝え、コンソーシアム加盟校全体の認知度が高まる活動は重要である。次年度も引き続き、広報活動の活発化に取り組んでいただきたい。</p>				

※ 自己評価基準:対到達目標	4:当初計画を上回って達成 3:当初計画を達成 2:当初計画をやや下回った 1:当初計画を下回った	※ 自己評価基準:対継続性	4:本プログラムは継続すべき 3:本プログラムは継続しても良い 2:本プログラムの継続には改善が必要 1:本プログラムは中止すべき
-------------------	--	------------------	--

【2024年度 学生交流委員会 事業報告(③取組2-2)】(案)

課題③	大学の枠を超えた学生間の交流・活動促進
達成目標	参加加盟校数10校以上/年
課題を解決する取組概要	加盟校・学生の地域活性化に関わる取組広報の実施 学生発信ブランディング 若者による「震災の教訓を繋ぐプロジェクト」
活動指標	個人参加15名以上

計画(8月記載)	自己評価(12月記載)	報告(3月記載)
<p>◆若者による「震災の教訓を繋ぐプロジェクト」(兵庫県危機管理部防災支援課受託事業) *6月理事会承認</p> <p>【受託期間】2024年8月1日～2025年10月31日</p> <p>【目的】 阪神淡路大震災30年の節目を迎えるにあたり、震災の風化を防ぎ、次世代に震災の経験と教訓を繋いでいくことを目的としている。</p> <p>【内容】 震災を知らない若者が、震災から学び、教訓として次世代に何を伝えていくかをテーマに、調査や取材による動画制作とSNS等での発信を通して、若者の視点で防災・減災啓発における情報を、地域社会に伝えていく。コンソは加盟校から参画学生を広く募集し、チームの立ち上げ、活動を支援する。学生の教育的観点からは震災を主体的に深く学び、創作意欲や協調性の醸成、活動は地域の防災意識の向上や活性化に繋がる取組みであり、広報(ブランディング)活動の一環ともなる。</p> <p>【スケジュール】 ●募集期間: 9月初旬～30日</p> <p>●防災・減災啓発動画制作・配信 活動期間: 2024年10月～2025年2月末 10月初旬: 全体会議(キックオフ) ～11月中旬: 台本作成・完成、調査、取材など 班別に活動 ～12月中旬: 撮影シーンの確定 (全体会議は計3回予定) ～1月中旬: 撮影実施 ～2月末: 完成動画の公開予定 (HP、SNSなどでの発信) *2025年開催の大阪関西万博 ひょうごEXPO week 「災害からの創造的復興」での上映も検討中</p> <p>●防災・減災啓発情報のSNS等での発信 活動期間: 2024年11月(予定)～2025年10月末</p>	<p>◆若者による「震災の教訓を繋ぐプロジェクト」</p> <p>●防災・減災啓発動画制作・配信 【参加学生数】6校11名 ・関西学院大学(4)・甲南大学(2) ・神戸学院大学(1)・神戸松蔭女子学院大学(2) ・神戸親和大学(1)・兵庫県立大学(1)</p> <p>(活動内容) ① 第1回全体会議(キックオフ)実施 【開催日】2024年10月12日 【会場】兵庫国際交流会館2F 研修室1 【参加者】11名(兵庫県危機管理部防災支援課1名、企業1名、学生9名) 3班に分かれテーマ別に3本の動画作成する。 ② 第2回全体会議 【開催日】2024年11月5日 【会場】兵庫国際交流会館1F ナダコムステーション 作成台本案について意見交換 ③ 第3回全体会議 12月2日開催予定 ④ 被災地ワークショップ研修(能登半島調査・ボランティア 1月中旬 詳細計画中) ⑤ 動画公開: 2月末予定</p> <p>●防災・減災啓発情報のSNS等での発信 活動予定: 2025年1月～2025年10月末</p> <p>(自己評価) 学生目線の分かりやすい防災動画制作すべく、各班ごとにWEB会議、台本作成等の活動を行った。学生が自ら大震災を学び、その教訓を捉え次世代にメッセージを繋げると共に、主体的な創作や仲間との協調性を育む新たな交流、教育機会ともなっている。来年2月末の動画完成後の大阪・関西万博会場での上映を見据えて活動を進めている。8月に受託事業の計画が変更され、募集期間が短くなったこと等により、現時点では活動指標・達成目標は計画をやや下回っているが、震災の教訓や防災・減災への学生の関心を高めるべく、SNS情報発信活動において、学生の参加募集を行い、本事業のさらなる充実を図る予定である。</p>	<p>◆若者による「震災の教訓を繋ぐプロジェクト」</p> <p>●防災・減災啓発動画制作・配信 【参加学生数】6校11名 ・関西学院大学(4)・甲南大学(2) ・神戸学院大学(1)・神戸松蔭女子学院大学(2) ・神戸親和大学(1)・兵庫県立大学(1)</p> <p>(活動内容) ・全体会議(第1回～8回) 【開催日】8回(2024/10/12・11/5・12/2・12/20・2025/1/8・1/21・2/1・2/16) 【参加者数】のべ69名 ・被災地ワークショップ研修(能登半島調査・ボランティア研修 1月10-12日実施) 【参加学生数】5校14名 ・動画公開: 3月末予定</p> <p>●若者による「震災の教訓を繋ぐプロジェクト」阪神・淡路大震災30年リメンバー117プロジェクト～若い世代の言葉で、震災・防災を語る～メディア取材編集・発信 【活動期間】2025年2月～2025年10月 【参加者】14名 (内訳)加盟校学生14名: 関西学院大学(4)、神戸学院大学(1)、神戸松蔭女子学院大学(2)、兵庫県立大学(6)、神戸常盤大学(1)</p> <p>(報告) 防災動画制作は、震災映像や伝えたい教訓の画像、入手に苦勞したが、学生が自らAI画像生成なども行い、編集され3月末に完成予定。学生が大震災を学び、能登半島地震被災地でのワークショップ研修も行った。次世代にメッセージを繋げると共に、主体的な創作や仲間との協調性を育む交流、教育機会ともなった。動画完成後は大阪・関西万博会場等での上映予定もある。8月に受託事業の計画が変更され、募集期間が短くなったこと等により、活動指標は達成・達成目標は計画をやや下回っているが、震災の教訓や防災・減災への学生の関心を高めるべく、今後のSNS情報発信活動において、次年度も引き続き本事業のさらなる充実を図る予定である。</p>
達成目標に対する実績	参加加盟校数: 6校	参加加盟校数: 7校
活動指標に対する実績	個人参加11名	個人参加25名
自己評価基準: 対到達目標 ※	3	—
自己評価基準: 対継続性 ※	4	—

事業収支				
収入	支出	収支	支出	収支
8,730,900円 (2025年2月28日、当初委託料金9,730,900円を1,000,000円減額に変更契約。なお1,000,000円は2025年度に繰越)	2,339,972円	7,390,928円	8,730,900円	8,730,900円

理事会からの改善提案(次年度事業計画に反映)

阪神・淡路大震災を経験したコンソーシアムとして、震災を知らない世代の加盟校学生たちが兵庫県の防災啓発動画を作成する本取り組みは、意義深い活動であると評価できる。次年度は、SNSを活用した情報発信活動の実施、また全国コンソーシアム研究交流フォーラムにて、加盟校での各取り組みと共に、オールひょうごとして防災・減災への意識向上に向けて発信いただきたい。

※ 自己評価基準: 対到達目標	4: 当初計画を上回って達成 3: 当初計画を達成 2: 当初計画をやや下回った 1: 当初計画を下回った	※ 自己評価基準: 対継続性	4: 本プログラムは継続すべき 3: 本プログラムは継続しても良い 2: 本プログラムの継続には改善が必要 1: 本プログラムは中止すべき
--------------------	--	-------------------	--

2024年度 学生交流委員会 事業決算(案)

(単位:円)

	予算額	決算額	各プログラム 予算・決算									委員会 予算・決算			
			取組1			取組2-1			取組2-2						
			WILL BEプロジェクト 「テーマ型の学生交流プロジェクト」			学生発信ブランディング 「加盟校・学生の地域活性化に関わる取組広報」			学生発信ブランディング 「大学間連携組織を活用した県民向け防災施策PR動画作成業務」			内訳	予算額	決算額	
			内訳	予算額	決算額	内訳	予算額	決算額	内訳	予算額	決算額				
収入	会費収入	1,350,000	305,283		1,010,000	170,393		240,000	78,700					100,000	56,190
	助成事業収入	0	0												
	受託事業収入	8,730,900	8,730,900							兵庫県危機管理部委託業務	8,730,900	8,730,900			
	プログラム収入	0	0												
	雑収入	0	0												
	戻入金	0	0												
	計	10,080,900	9,036,183		1,010,000	170,393		240,000	78,700		8,730,900	8,730,900		100,000	56,190
支出	会議費	126,200	37,082	交流会・反省会	100,000	2,756				会議費	16,200	34,326	会議費	10,000	0
	旅費交通費	1,305,400	249,260	交通費・昼食費	700,000	14,020	交通費・昼食費	30,000	0	交通費・昼食費	565,400	230,920	旅費交通費	10,000	4,320
	通信運搬費	310,400	735,928	Zoom	0	13,636	通信費	10,000	18,700	通信費	290,400	679,832	通信費	10,000	23,760
	消耗品費	330,000	525,198	消耗品	10,000	14,756				消耗品	310,000	510,442	消耗品	10,000	0
	新聞図書費	0	18,136							参考図書		18,136			
	印刷製本費	0	112,901							コピー代		112,901			
	光熱水料費	0	0												
	賃借料	30,000	202,115	会場費	0	124,400					30,000	77,715			
	保険料	50,000	65,454								50,000	65,454			
	謝金	250,000	0	講師等謝金	50,000	0	謝金・原稿料等	200,000	0	講師等謝金					
	租税公課	0	10,000									10,000			
	支払手数料	30,000	7,235	振込手数料	0	825				振込手数料		6,300	振込手数料	30,000	110
	諸会費	190,000	95,000	ブース等出店料	150,000	0					40,000	95,000			
	委託費	4,018,900	3,088,000				HP更新費	0	60,000	製作費等	3,988,900	3,000,000	各プログラムHPに係る予備費	30,000	28,000
	人件費	3,440,000	3,889,874								3,440,000	3,889,874			
	接待交際費	0	0												
	支払支援金	0	0												
	雑費	0	0												
計	10,080,900	9,036,183		1,010,000	170,393		240,000	78,700		8,730,900	8,730,900		100,000	56,190	

収入－支出	1,044,717
-------	-----------

【取組2-2】学生発信ブランディング「大学間連携組織を活用した県民向け防災施策PR動画作成業務」2025年2月28日、当初委託料金9,730,900円を1,000,000円減額に変更契約。
なお1,000,000円は2025年度に繰越

【取組2】学生発信ブランディング「加盟校・学生の地域活性化に関わる取組広報」について

大学コンソーシアムひょうご神戸 note「地域で輝く学生」掲載状況(年度別・学校別)

2025年3月19日時点状況、取組(2022年度28取組・2023年度25取組・2024年度47取組)

学生交流委員会	掲載校	2022	2023	2024	2022-2024	掲載数
1	芦屋大学	2			2	81
2	大手前大学			3	3	
3	大手前短期大学			2	2	
4	関西国際大学	2		1	3	
5	関西学院大学	3	1	2	6	
6	関西学院短期大学				0	
7	甲南大学		1	2	3	
8	甲南女子大学	1		10	11	
9	神戸大学	1		2	3	
10	神戸海星女子学院大学	2	1		3	
11	神戸学院大学	2	1	7	10	
12	神戸国際大学			2	2	
13	神戸市看護大学			2	2	
14	神戸松蔭女子学院大学	2	2	2	6	
15	神戸女学院大学			2	2	
16	神戸女子大学	1	1	1	3	
17	神戸女子短期大学				0	
18	神戸親和大学	1		2	3	
19	神戸常盤大学	1		2	3	
20	頌栄短期大学			2	2	
21	園田学園女子大学	1		1	2	
22	園田学園女子短期大学部				0	
23	姫路大学	1			1	
24	兵庫大学	1	1	2	4	
25	兵庫大学短期大学部				0	
26	兵庫県立大学	2		1	3	
27	流通科学大学		1	1	2	
①	学生交流委員会委員校	23	9	49	81	
②	大学コンソーシアムひょうご神戸	4	12	6	22	
③	その他(加盟校寄稿)	1	4		5	
	合計	28	25	55	108	

20校49取組

【取組2】学生発信ブランディング「加盟校・学生の地域活性化に関わる取組広報」について

2. 事業計画(2024年度)と実績報告(2022年度～2024年度)

取組2	学生発信ブランディング「加盟校・学生の地域活性化に関わる取組広報」		2024年度 予算	240,000円		
目的	大学コンソーシアムひょうご神戸中長期計画Ⅱ期の柱「1. 地域の活性化に資する人材育成のための連携」の推進。 以下の取組課題について事業推進を行う。 取組課題③「大学の枠を超えた学生間の交流・活動促進」 年間を通し各委員校からの提案を協議し、大小問わず、魅力的、そして学生が地元地域への理解を深め、魅力を感じることができるプログラムを予算範囲内で可能な限り実施し、学生交流を活性化させることを目的とする。 上記取組を推進する体制の構築並びに、必要なプロジェクト事業は本委員会にて実施する。					
課題③	大学の枠を超えた学生間の交流・活動促進					
課題を解決する取組概要	加盟校・学生の地域活性化に関わる取組広報の実施					
達成目標	情報公開数200取組以上					
活動指標	各加盟校からの情報提供/年1回以上、情報公開数40取組以上/年					
2024年度事業計画(4月記載)	◆地域の活性化に関わる加盟校学生の取組事例の紹介 大学コンソーシアムひょうご神戸のホームページに、加盟校の学生が地域の活性化に関わる取組事例を公開する。また必要に応じて、様々なメディア等への告知を検討・計画する。 <内容> 加盟校からの情報提供をもとに、地域で若者が活躍する姿を周知することにより、加盟校による地域の活性化のための貢献活動に取り組む。					
達成目標に対する実績	2022年度	2023年度	2024年度	2022～2023	2024	累計
	1. 大学コンソーシアムひょうご神戸HP上、note「地域で輝く学生」(2取組掲載)	1. 大学コンソーシアムひょうご神戸HP上、note「地域で輝く学生」(2.5取組掲載)	1. 大学コンソーシアムひょうご神戸HP上、note「地域で輝く学生」(5.4取組掲載)	53	55	108
	2. 「KISSFM神戸」に2022年7月14日、9月22日、12月23日、2023年1月26日と計4回出演。 「WILL BE プロジェクト」に参加した学生5校8名(各回2名)が、コンソの活動や学生交流委員会の活動をPR(4回)	2. 大学コンソーシアムひょうご神戸HP上「地域・社会での交流～学生の地域での活動がわかる～」 加盟校の地域連携・社会連携情報リンクを集約。38校掲載(1回)	2. 大学コンソーシアムひょうご神戸HP上「地域・社会での交流～学生の地域での活動がわかる～」 加盟校の地域連携・社会連携情報リンクを集約。36校掲載(前年度情報を更新)	5	—	5
	3. 取組1-1で、参加したイベント関連の広報をSNSを活用し、学生が自ら発信した。(計2.5投稿)	—	3. 取組1-1で、参加したイベント関連の広報をSNSを活用し、学生が自ら発信した。(計1.4投稿)	25	14	39
	4. メディア掲載 ■「ヴィクトリーナ姫路 スポーツビジネスコンテスト」 ・神戸新聞に取材記事が掲出された(2022年9月27日、2022年11月2日、2023年1月9日) (計3回)	3. メディア掲載 ■「ヴィクトリーナ姫路スポーツビジネスコンテスト」 ・「ヴィクトリーナ姫路のファン拡大策、神院大の企画が最優秀賞に10大学参加、ホーム戦で実践も」神戸新聞。2024年1月21日 ■「兵庫の魅力」Student Treasure Hunt Project 「体験型観光で訪日客を兵庫に 万博に向け学生プロジェクト講習会」神戸新聞。2024年3月25日 (計2回)	3. メディア掲載 ■若者による「震災の教訓を繋ぐプロジェクト」 ・「経験なき「あの日」継承模索」毎日新聞。2024年10月13日 ・「地元大学生が動画制作・・・「震災教訓、次世代へ阪神・淡路大震災30年」時事通信。2025年1月17日 ■「ヴィクトリーナ姫路スポーツビジネスコンテスト」 ・「ヴィクトリーナ姫路のファン拡大策、神院大の企画が最優秀賞に10大学参加、ホーム戦で実践も」神戸新聞。2024年1月21日 ・「神戸親和大学スポーツ教育学科の学生達がスポーツビジネスコンテストで最優秀賞を受賞」共同通信PRワイヤー/紀伊民報/沖縄タイムス/高知新聞/exciteニュース。2025年1月21日 ネットニュース5記事 (計8回)	5	8	13
取組数				88	77	165

3. 大学コンソーシアムひょうご神戸HP上「note」「地域で輝く学生」5か年掲載予定

情報提供者	2022	2023	2024	2025	2026	累計(5か年)	
学生交流委員校	24	8	52	52	52	188	188
	随時受付 年2回情報提供(前期・後期各一回など)						
学生交流委員校以外	0	4	5	5	5	19	51
コンソ事業(事務局)	4	13	5	5	5	32	
合計	28	25	62	62	62	239	

第22回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム 大学コンソーシアムひょうご神戸加盟校からの「パネル展示」応募状況

1. 募集要項(概要)

日時	2025年8月30日(土)12:00~19:30(コアタイム:15:10~16:30)	
会場	神戸学院大学 ポートアイランド第1キャンパス D号館1階 コミュニケーションモールほか	
エントリー締切	2025年2月26日(水)	
展示テーマ	兵庫から発信する大学間連携や産官学連携	
展示カテゴリ	A 大学間連携	大学間の連携活動(兵庫県内や兵庫県外の大学との連携活動)
	B 産官学連携	全国初・新規性・地域の取組など(各校の打ち出したい内容)
	C 震災30年	阪神・淡路大震災の教訓をつなぐ、大学の活動について
展示形式	1 ブース展示 パネル(縦1800mm×横1200mm)・長机	2 ポスター展示のみ



会場のコミュニケーションモール

2. 「パネル展示」について

- ①加盟校エントリー状況:12校17ブース ※1校で2ブース以上の出展希望あり
 (参加校)大手前大学(1)、関西国際大学(2)、関西学院大学(2)、甲南大学(1)、神戸大学(2)、神戸学院大学(1)、
 神戸国際大学(1)、神戸松蔭女子学院大学(1)、神戸親和大学(1)、兵庫大学(1)、兵庫教育大学(2)、兵庫県立大学(2)
- ②学生団体等の参加予定:5ブース(大手前大学・神戸学院大学・神戸親和大学、兵庫県立大学、大学コンソーシアムひょうご神戸)
- ③ブースカテゴリ
 (大学)1テーマで構成 【A】大学間連携(1)、【B】産官学連携(7)、【C】震災30年(8)
 2テーマで構成 【AB】大学間連携・産官学連携(1)、【BC】産官学連携・震災30年(1)
 (コンソ)2ブース【B】産官学連携、【C】震災30年
 (神戸新聞社)震災時の報道写真パネル(借用)

3. 「ポスター展示」について

加盟校エントリー:2校(甲南大学・神戸学院大学)

4. 出展に際しての質問(3月に回答予定)

- ①搬入・搬出の日程、方法
 ②展示パネルの材質(虫ピンや釘は刺せるか、養生テープの貼り付けは可能か、マグネットが留まるか)
 ③机のサイズ
 ④電源
 ⑤パネル展示に学生が出展する場合に、学生同士の交流の場などはあるのか

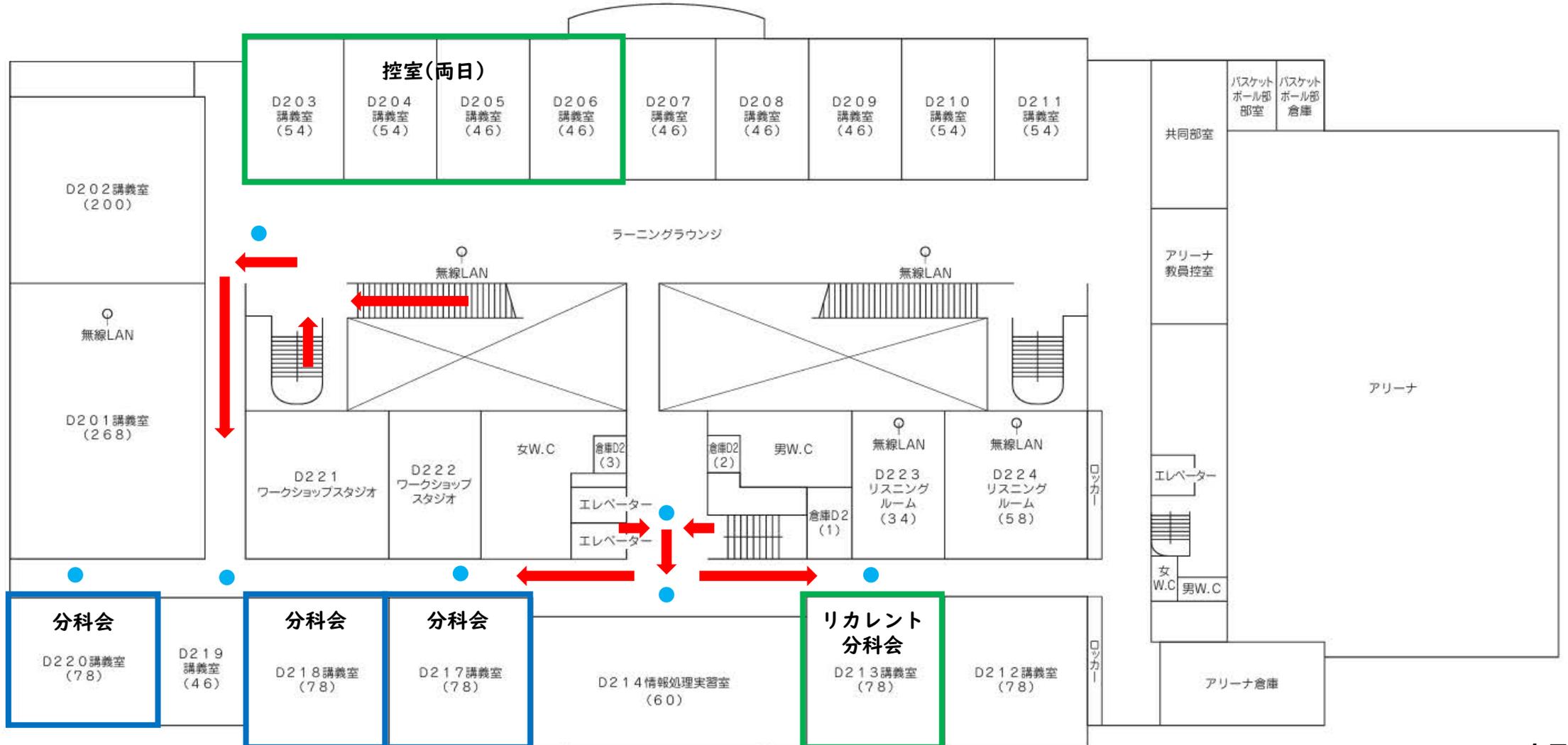
5. 展示は、①「A 大学間連携 B 産官学連携」、②「C 震災30年」の大きく二つに分けて、展示内容ごとにエリアを分けて構成を検討。
 出展校の希望、会場の動線・安全性などを勘案して、全体レイアウトを調整。設置スペースが対応可能であれば、追加の出展受付も検討する。

「パネル展示(ブース展示)」のテーマ一覧(2025年2月26日時点)

【A】大学間連携 【B】産官学連携		担当	テーマ	人員	学生	WS	動画	ポスター チラシ類	大学の グッズ	展示物 搬入	展示方法・スペース
1	兵庫県立大学	大学院減災復興政策研究科	【A】減災古文書研究会の活動紹介・ワークショップ「すごろくで遊びながら学ぶ！歴史地震」	○	○	○		○			・展示パネル(1台)と机(4台) ・机上で簡単なワークショップができるスペース
2	関西国際大学	社会連携課	【A】関西国際大学 大学間連携の取り組み 【B】関西国際大学 産官学連携の取り組み ※学内協議及び確認が必要。現段階での仮案	○				○	○		・展示パネル(1台)と机(1台) ・大学のオリジナルグッズを設置・配布
3	神戸親和大学	広報戦略室	【B】行政や企業と一緒に取組む予定の「地域共創科目」についての説明	○	○			○			・展示パネル(ポスター掲示のための壁やボード) ・机(1~2台)・椅子を数脚
4	神戸大学	研究推進部連携推進課	【B】神戸大学産官学連携本部における大学の活動について	○				○			・展示パネル(1台)と机(1台)
5	大手前大学	現代社会学部	【B】①神戸市交通局との連携「地下鉄海岸線沿線活性化事業」による街歩きマップ制作について 【B】②兵庫県阪神南県民センターの「大学生による地域活性化支援事業」による阪神間の情報パンフレット制作について	○	○			○			・展示パネル(1台)と机(1台) ・机上に街歩きマップを設置・配布 ・学生はコアタイム中心(常駐しない)
6	兵庫教育大学	教員養成・研修企画室	【B】教員養成大学における産官学連携のSTEAM教育	○				○			・展示パネル(1台)と机(1台) ・机上に「学生によるプロトタイプ(試作)」を展示
7	関西学院大学	社会連携・インキュベーション 推進センター	【B】25年春開設のインキュベーション施設、取り組みの紹介	なし				○	○		・展示パネル(1台)と机(1台) ・机上に大学のオリジナルグッズを設置・配布
8	甲南大学	社会連携機構事務室	【B】社会連携機構事務室で取り組んでいるテーマ(関西湾岸SDGsチャレンジ等)	なし				○		○	・制作物(タペストリー)を搬入・設置(掲示)。 ・タペストリーのサイズは、1枚(縦1.5m×横0.8m) ・タペストリーを複数枚設置。 ・パンフレット等も設置したい。
9	大学コンソーシアムひょうご神戸	学生交流委員会	【B】ひょうごフィールドパビリオン展示(仮)	なし			○	○			・ポスター ・常時動画を再生(電源必要)
【B】産官学連携 【C】震災30年											
10	兵庫大学	地域創生人材育成プラット フォーム事業推進センター	【B】地域での取り組み、【C】福祉避難所の設置およびその訓練等について	○				○	○		・展示パネル(1台)と机(1台) ・机上に大学のオリジナルグッズを設置・配布
ポスター展示											
—	神戸学院大学	社会連携グループ	【A】東北福祉大学(T)・工学院大学(K)・神戸学院大学(K)「TKK3大学連携プロジェクト」	-	-	-	-	-	-	-	
—	甲南大学	社会連携機構事務室	【C】「震災30年シンポジウム」(学内で2025年秋実施予定)に関するポスター(詳細未定)	-	-	-	-	-	-	-	
【C】震災30年											
1	関西学院大学	災害復興制度研究所	阪神・淡路大震災の教訓を未来へつなぐ：関西学院大学災害復興制度研究所20年の歩み	○			○	○			・展示パネル(1台)と机(1台) ・机上に大学の印刷物などを設置・配布 ・活動紹介の動画を投影(ノートPCは、大学が持参) ・電源必要
2	関西国際大学	社会連携課	セーフティマネジメント教育推進室及び学生サークルでの取り組み(仮)	○				○	○		・展示パネル(1台)と机(1台) ・机上に大学のオリジナルグッズを設置・配布
3	神戸学院大学	社会連携グループ	神戸学院大学 防災教育・震災継承の取り組み・被災地支援活動に関する紹介	○	○	○					・展示パネル2台、机4台希望 ・学生団体が展示説明と共に来場者向けに簡単なワークショップ ができるスペースを希望(4m×2m程度)。 ※スペースが難しい場合は、展示パネル(1台)と机(3台)に内容 を変更することも可。
4	神戸国際大学	学生支援センター	神戸国際大学学生会主催 「震災30年」阪神・淡路大震災の教訓をつなぐ防災トライアル研修会の開催	○	△			○	○		・展示パネル(1台)と机(1台) ・机上に大学防災グッズセット等を設置・配布・学生参加検討中
5	神戸松蔭女子学院大学	地域連携研究センター	・地域住民へのバック・クッキング(災害時調理)指導 ・地域インターンシップ受講生による防災イベント参加・指導 ・1.17イベント等における「つなぐ」をテーマにした書道パフォーマンス	○	△			○	○		・展示パネル(1台)と机(1台) ・机上に大学のオリジナルグッズを設置・配布 ・学生は希望者がいた場合のみ
6	神戸大学	研究推進部連携推進課	神戸大学生30年の災害語り継ぎとボランティア	○				○		○	・展示用パネル(A1)を20枚程度 =スタンド付き、あるいは、イーゼル展示と併用
7	兵庫教育大学	教員養成・研修企画室	間の防災—いまのあいだに考える、あしたのための防災 2024年10月1日から2025年2月16日まで大学の教材文化資料館で行われた企画展「間(あいだ)の防災」を出張展示	○			○	○		○	・展示パネル(1台)と机(1台) ・ブース内に1.5×0.7m程度の体験用ダンボールベッドを設置 ・タブレット等で常時動画を再生(電源必要)
8	兵庫県立大学	減災復興政策研究科	令和6年能登半島地震における学生ボランティアの活動状況(仮)	○				○	○		・展示パネル(A0サイズ×2枚)と机(1台)・イス3脚 ・机上に大学のオリジナルグッズを設置・配布
9	大学コンソーシアムひょうご神戸	学生交流委員会	震災の教訓をつなぐプロジェクト・防災学生ボランティアネットワーク等	-	○	-	○	-	-	-	・常時動画を再生(電源必要) ・災害学生ボランティアネットワーク制作物
10	神戸新聞社	借用	阪神・淡路大震災当時の記録写真パネル	-	-	-	-	-	-	-	・展示パネルを借用

第22回 全国大学コンソーシアム研究集会 会場配置図 (D号館2階)

- ← 導線
- 木製A型看板
- コマ付き案内版



キッズフェスティバル計画書(案)

1. イベント概要

イベント名: シン キッズフェス

開催日: 未定(INAC 神戸ホームゲーム開催日)

開催時間: 未定(キックオフ2時間前から試合終了まで)

開催場所: ノエビアスタジアム

主催者: 学生交流委員会加盟校

対象: 未就学児童とその家族、試合観戦者

目的: 子供たちに楽しい体験を提供し、地域社会との交流を深める、女子サッカーの楽しさを伝える

2. プログラム内容

オープニングセレモニー

- 挨拶とイベントの紹介
- 特別ゲストの紹介

アクティビティゾーン

【例】

スポーツゲーム: サッカー、バスケットボール、アイスホッケー、ラグビー、リレー競技など

クラフトワークショップ: 手作りおもちゃ、絵画、折り紙など

フェイスペインティング***: 子供たちが好きなキャラクターやデザイン

ミニコンサート: 学生による演奏

フードコーナー: 地元のフードトラック

☆INAC 神戸レオネッサ公式戦:

- 試合の運営と広報を学生が担当 ※企業課題解決(ex 来場者数問題)を同時並行で実施
たとえばこんなことを考えさせる。

キッズフェスティバル連動観戦チケットのアイデア

1. ファミリーパックチケット

観戦チケットに加えて、キッズフェスティバルのアクティビティ参加券をセット。

フェスティバル内で使えるフードクーポンや、子供向けの記念品をプレゼント。

2. キッズアクティビティパス付きチケット

観戦チケットに、特定のアクティビティへの優先参加権をセット。

アクティビティ参加後に選手との写真撮影会やサイン会に参加できる権利。

3. 試合前イベント参加チケット

試合前に行われる選手との交流イベント(ミート&グREET、サッカークリニックなど)への参加権をセット。

選手からのサイン入りグッズや、試合前のウォームアップ見学ツアー。

4. スタジアムツアー付きチケット

観戦チケットに、スタジアムの裏側を見学できるツアーをセット。

ツアー中に撮影した写真を記念アルバムとしてプレゼント。

5. 親子ペアチケット

親子で楽しめる特別なアクティビティ(例えば、親子サッカー教室)への参加権。

6. 限定グッズ付きチケット

観戦チケットに、キッズフェスティバル限定のグッズ(Tシャツ、キャップなど)をセットにします。

グッズに選手のサインを入れてもらえる機会。

7. エンターテイメントパッケージ**

キッズフェスティバル内で行われるミニコンサートやパフォーマンスショーの優先席をセット。

パフォーマンス終了後に出演者との写真撮影会。

- 試合前後のイベントやアクティビティの企画 ⇒ キッズフェスグループと連携する

エンディングセレモニー:

イベントの振り返り

参加者への感謝の言葉

3. 予算計画

会場費: INAC 神戸さんと相談

設備費: INAC 神戸さんと相談

宣伝費:

- ポスター・チラシ印刷費用
- SNS 広告費用

人件費:

- 交通費、昼食代

その他費用:

- 記念品の購入費用
- 緊急対応費用

4. 広報計画 ※企業課題解決グループと連携

ポスター・チラシ配布: [配布場所]

- 地元の学校、図書館、コミュニティセンターなど

SNS での宣伝: [使用するプラットフォーム]

- Facebook、Instagram、Twitter など

地域メディアとの連携: [メディア名]

- 地元の新聞、ラジオ、テレビ局

5. リスクマネジメント ※ミニインターンシップ的な学びとする

緊急連絡先の確保:

- イベント当日の緊急連絡先リスト

救護所の設置:

- 救護所の位置とスタッフの配置

スタッフの配置:

- 各ゾーンに配置されるスタッフの役割と人数

6. スケジュール

準備期間: [開始日] ~ [終了日]

- イベント準備のスケジュール

当日のタイムスケジュール**:

- [時間] ~ [時間]: 準備
- [時間] ~ [時間]: イベント開催
- [時間] ~ [時間]: 片付け

7. 連絡先

主催者代表: [名前]

連絡先: [電話番号] / [メールアドレス]

以上